



**VOL 9**

2008年3月号  
 発行2008年2月27日  
 日本山岳会 山岳地理クラブ  
 URL www.jac.or.jp/doukoukai/

## ロングトレイル考

### 近藤 善則

最近全国でロングトレイルの構想が話題になっている。山をピークとして山頂をめざすことから、山と山を繋ぎ歩き、その地域の文化や歴史を体感しながら距離を歩くコースを設定して、環境づくりや街づくりをしていこうという風潮である。日本トレッキング協会でも認定コースを選定して、ある程度のハードルを設けているものの、まだまだロングトレイルとはどのようなものを云うのかはっきりしている基準があるわけではないので、各地の観光パンフレットなどで「トレイル」と称してハードな山岳コースもあれば、車も通れるような一般道を組み込んだコースなどが紹介されており、内容もレベルもまちまちである。概ね係わる市町村の観光資源として考えられているようだ。

海外ではアメリカのアパラチアントレイル (Appalachian Trail: 約3500km)、パシフィック・クレスト・トレイル (Pacific Crest Trail: 約4200km)、コンティネンタル・ディバイド・トレイル (Continental Divide Trail: 約5000km) などナショナル・シーニック・トレイルというスケールの大きなトレイルが幾つもあり、ヨーロッパにもアルプス縦断コースなどが紹介されて、トレイルの踏査に挑んでいる旅人や登山者も多い。日本では中央分水嶺が全てトレイルコースとして整備することにもなればアメリカに匹敵するロングトレイルが完成するのであるが、おそらく永久にありえない事だろうと思う。その中で最近関西に「中央分水嶺・高島トレイル」というものが出来、昨年同地で「全国トレイルサミット」が催された事は、もしかして全国を繋ぐトレイルのきっかけにもなれば面白いのだが・・・と感じたが、実情はやはり観光誘致が主体の発案した高島市の思惑が大きいようだ。

さて私の関係している馴染みのエリアでもロングトレイルコース選定が話題になっており、現在2種類の構想が持ち上がっている。一つは「浅間ロングトレイル」というもので浅間山麓に係わる市町村が推進しているもの。もう一つは「上信越POPトレイル」という嬭恋村が推進する山岳コースの構想である。前者は遊歩道・一般道・林道などをつなげた体験型の観光主体の周遊トレイルで、浅間山周辺の山を越えるものは殆どなく、係わる市町村の観光エリアを万遍なくつなげたもの。後者は嬭恋村周辺を取り巻く上信越国境の主に中央分水嶺に沿った山岳コースであり既存の登山道をベースにコースを提案している。

\*\*\*\*\*

行きましょう

### 次回読山行の案内

2008年3月22日(土) 場所: 鶴島御前山

集合: JR 中央本線・上野原駅 AM9:15

全く肩のこらない読山行です。JR 上野原駅の南西・鶴島御前。上野原駅から桂川橋を渡ってすぐ右におれ、墓地の向かい側から山道に入ります。御前山からは柘穴御殿山(柘穴御前)を経て柘穴からつり橋、四方津駅になりますが、多分時間が早すぎるので向かい側の四方津御前を目指しましょう。地図には

どちらもコースの選定には苦心しているようだが、問題はそこを訪れる観光客や旅人が何を感じ何に感動してくれるかという事、そして選定する側が何を伝えたいかという観点が重要で、単なる流行で「あの地域がやっている事に乗り遅れるな!」とか「 트렌데이だから」とかの基準であってはならないことは当然のことであるが、ややもすると流行や採算ベースで事がまわってしまうことを杞憂する事が多い。この2つの全く基準の異なるトレイルが今後どのように展開していくのか非常に興味のある事なので、しばらく注目していきたいと思う。

もちろん私は上信国境をめぐる山岳トレイルが整備され、やがては全国の分水嶺が互いに繋がって、世界に通用するトレイルの完成を願うものであるが、トイレなどの施設の整備や諸々の費用など多額の予算が必要になるので、たぶん夢物語での計画であることに変わりがないのだが・・・。



浅間ロングトレイル案



上信越POPトレイル案

道が無いので、探してみましよう。上野原駅9:11着でお願いします。山村正光氏の「車窓の山旅・中央線から見える山」で、山の形の山として紹介されています

2008年4月20日(土) 場所: 大菩薩 源次郎岳

集合: JR 塩山駅 9:00

少し藪の、あまり人の入らない山です。塩山からタクシーで入るまで(多分中日川峠)から源次郎岳、その後多分藪になっている尾根を恩若ノ峰經由塩山まで。あずさ3号:新宿7:30、塩山8:53を予定しています (担当:北野)

第4回読図研修報告

「ハイキングコースで読図2」

鶴田泰子

2008.2.16(土)9時、京浜急行金沢文庫駅に平野、近藤、今井、鶴田(寛)、高橋、鶴田(泰)の6名は、今年一番の冷え込みにもメゲず、やる気満々で集合。北野、遠山、大西の3名は都合悪く、欠席の連絡があったので、9:15 行動開始。予定コースを外れるが、近くの国道16号線北東方向700m程行った所に一等水準点があり、急遽見学に行くことに決定。国土地理院の立て札と四角に石で守られた標高7.2mの立派な水準点であった。

すぐに今日の予定の12ポイントの内の 番谷津染井公園に戻り、予定コースの確認と現地地点の標高、緯度、経度の計測、地図上での次ポイントへの距離を測り、シルバーコンパスの方位角を次ポイントに合わせ出発する。

今迄の読図研修の成果が要領手際も良く10分位で準備Ok、9:50 出発。ポイント 75.2mの三角点はハイキング道から外れているが難なく探し出し、能見堂跡記念碑のあるポイント に向かう。紅、白の梅が見ごろで、一句浮かびそうな雰囲気。鎌倉時代の人々が集い、金沢八景の海山の絶景を楽しんだといわれる、そんな情景を偲ばせる場所である。次ポイント の不動池に一旦下り確認。10:35 次のポイント 83.0mの三角点を指す。

これはハイキング道より外れ、150m程藪の中を探さなければならなかった。中々見つからず、笹とつる草に悩まされAGCピンチ。

手分けをして、無線を使ったりGPSを使ったりしてAGC特有の藪に対する執念で藪に埋もれたポイント 三角点を探し出した。見つからず諦めかけた時、高橋さんが「三角点を大切にしましょう」と書かれた白い杭を、藪を掻き分け見つけ出し、無線で全員集結して喜び合った。本日の感動クライマックスとなる。

ポイント の給水塔で今井さんは遠山さんと無線交信を試みたが、こちらの声は届くが遠山さんの声は聞こえなかった。

の金沢自然公園入り口で遅い昼食を取り、13:00 にポイントの大丸山へ向かう。しばらく高速道路沿いに行き大丸山への尾根に取り付くのだが、地図上の破線道は廃道となっており、沢沿いにぬかる道に入り込み途中より急な尾根に取り付いたが、崖で滑るためロープに頼り慎重によじ登った。この辺りは行く方向を定めるのに送電線がとても役に立った。取り付きから高さ50m、距離200mほど登って、横浜の最高峰ポイント 156.8mの大丸山に 13:45 到着。



ここより方位22度に方向転換して円海山へ。1時間弱でポイント 153.3mの円海山に到着するも、FM放送電波塔があるため柵があり、入れない。東北地方の山の会の標識が緯度、経度、高さを記して柵に取り付けてあった。その数値は地図上の三角点の数値とその場で測ったGPSの数値N35°21'39"、E139°35'38"と一致していた。



15:00 ポイント 瀬上池堰堤に向けて円海山を後にする。いっしんど広場より270度の方向に70mほど樹林の中を下り、田圃用の灌漑池である瀬上池に出る。ここより送電線に沿って田圃道だ、坂の上の高校に沿った坂道を登ったらポイント Y印港南台消防署に出た。ひきつづき330度方向に街中を進むと最終ポイント 港南台駅が見えてきた、16:20 到着。

行動時間7時間(含む休憩及び読図等)。今回の研修は1/2.5万地形図「戸塚、の大丸山、円海山」を中心にあらかじめ12のポイントを決め、各場所で標高、緯度、経度を測定し、シルバーコンパスで次ポイントの方位角と次ポイントまでの地図上での直線距離を確認して、地形上と地図上の位置確認をしながらの緊張した山歩きであった。

天気に恵まれ(ちょっと雪が舞ったが)、皆の意気込みも盛り上がり無事全ポイントを確認出来、有意義な勉強会だったといえるかな!

最後、生ビールの咽喉越しが皆の満足を一層増す反省会となった。

例会の議事録

2008年2月6日(水) 19:00~20:00 於 JAC 集会室 A2 出席者7名(北野、平野、遠山、近藤、片野、大西、今井(順不同))

内容: AGCレポート特別版が完成して50部作成した。26部を会員に発送した。原価は1冊1,200円になったが、会員からは1,000円を徴収することを決定した。来期の会費1,000円とともに会員各位から合計2,000円を専用講座へ振込み願いたい。(口座番号等は前号の会計報告欄参照)。(近藤) 1月19日に行われた吾野方面の読図研修地域の山稜詩写し配布と解説。(遠山) 1月19日の第3回読図研修(入門1)の行動記録発表。(大西) 地図整理は25棚のうち、22棚が終了した。後2・3回で完了する。(近藤) 3月の読図山行は番外として3月22日(土)に鶴島御前(上野原)とし、4月は第5回として4月20日(日)に下日川、源次郎岳、塩山のコースを予定する。(北野) 終了後は「鮎の家」にて懇親会(7名以上(文責今井))

お知らせ

会費徴収のおねがい

2008年度分の会費を徴収しますので宜しくお願いいたします。例会に出席できない方は、ゆうちょ銀行の口座に振込願います。

口座 記号番号 10130 12841191 タカハシモトコ

2008年度会費2,000-(昨年まで未納の方には別途お知らせしますので宜しくお願いいたします (会計・高橋))

次回の例会

日時 3月5日(水) 18:30から 於:山岳会 ルーム  
テーマ:読図研修の報告、次回の詳細説明、ほか  
例会終了後の懇親会も是非出席ください  
なお、同日15:00から地図整理を行います

編集後記

> 春一番は猛烈な風でした。野山は少しずつ春の芽生えが感じられ、いろいろなものが動き出したようです。(kon)

AGCレポート vol-9 2008年2月27日発行  
発行:日本山岳会・山岳地理クラブ  
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付  
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441  
編集担当:近藤 E-mail:hikarikon@nifty.com